

リスクコミュニケーション について

食品安全行政を取り巻く動向

食品をめぐる環境の変化

飢餓から飽食の時代へ(先進国)

新たな食の問題の発生

貿易の国際化

大量生産・大量流通

長距離輸送の普遍化

海外旅行の一般化

など

国際的な考え方



フード・チェーンアプローチ

生産から消費に至るフード・チェーン全段階で安全を確保することが重要

リスクアナリシス

事故の対応より予防に重点、安全性評価と管理の機能的分離、利害関係者間の情報や意見交換の推進

食品の安全への取組(リスク分析)

リスク分析

- リスク分析とは、**国民の健康の保護**を目的として、国民やある集団が危害にさらされる可能性がある場合、事故の後始末ではなく、**可能な範囲で事故を未然に防ぎ、リスクを最小限にする**ためのプロセス

リスク評価

食品安全委員会

・リスク評価の実施

健康に悪影響を及ぼすおそれのある物質が食品中に含まれている場合に、どのくらいの確率でどの程度の悪影響があるのか評価

食品安全基本法

リスク管理

厚生労働省

- ・食品中の含有量について基準を設定
- ・基準が守られているかの監視

食品衛生法等

農林水産省

- ・農薬の使用基準の設定
- ・えさや肥料中の含有量について基準を設定
- ・動物用医薬品等の規制 など

農薬取締法 飼料安全法 等

消費者庁

- ・食品の表示について基準を設定
- ・表示基準が守られているかの監視

食品衛生法 健康増進法 JAS法 等

リスクコミュニケーション

- ・食品の安全性に関する情報の公開
- ・消費者等の関係者が意見を表明する機会の確保

消費者庁が
総合調整

食品の「リスク」とは？

食品中にハザード(健康に悪影響をもたらす可能性のある物質等)が存在する結果として生じる悪影響の確率とその程度の関数

※日本語にはなかった概念「Risk」≠「危険」
(必ず起きるかどうかはわからない)

絶対に安全な食品はあるか？

ある物質が健康に悪影響を及ぼすかどうかはその物質の有害性と摂取量で決まる。

※どんな物質・食品も摂取量によっては健康に悪影響を及ぼす可能性がある。(リスクゼロはあり得ない。)

「リスクコミュニケーション」とは？

リスクに関係する人々の間で、食品のリスクに関する情報や意見を相互に交換すること。



※有害性やおこる確率がどの程度ならば受け入れ可能で、そのレベルまでリスクを下げるためにどうすれば良いかについて関係者の理解を深め、共に考えようというもの。

「リスクコミュニケーション」 を難しくしている要因

○リスクの認知ギャップ

「実際のリスク」と「人々が感じるリスク
(認知リスク)」には差がある。

○食品の安全性についての思い込み

リスクの認知ギャップ

- 実際より大きく感じられるハザード
 - ・ 未知のもの、情報が少ないもの
 - ・ よく理解できないもの
 - ・ 自分でコントロールできないもの
- 実際より小さく感じられるハザード
 - ・ 便利さや利益が明らかでないもの
 - ・ 自分でコントロールできるもの

食品の安全性についての 思い込み

- 自然由来の物質は安全で合成化学物質は
みな危険
- 有害なものがほんの少しでも入っていたら危険
- 賞味期限を1日でも過ぎていれば危険